

## IOSCO 報告書によって世界の投資ファンド業界に新たな見方がもたらされた

証券監督者国際機構（IOSCO）の代表理事会は、本日、「[投資ファンド統計報告書（IFSR）](#)」の第2版を公表した。本報告書は、世界の投資ファンド業界に新たな見方をもたらすものである。本報告書は、IOSCO メンバーから包括的に収集された、2021 年末時点の監督データに基づいている。

IFSR は、投資ファンドデータの定期的な収集と分析を促進することを目的とした年次の課題であり、当局とステークホルダーが情報を共有し、グローバルな投資ファンドセクターのトレンドを観測することを可能にする。IFSR は、IOSCO がこれまで隔年で実施していたヘッジファンド調査を基礎としている。

昨年、IOSCO は IFSR の初版を公表した。今年の報告書では、新しいデータを用いて分析を更新したほか、初めて、オープン・エンド型ファンドとクローズド・エンド型ファンドのトレンド分析を行っている。本報告書の概要は以下の通りである。

- 投資ファンド全体のレバレッジ水準は昨年と同程度であるが、ファンドの種類によって若干の変化がある。例えば、報告された指標によると、ヘッジファンドのレバレッジは低下を示している。
- 総合的なレベルでは、ヘッジファンドのポートフォリオの流動性は、投資家に通常提供される流動性を大幅に上回っているようである。
- 昨年と同様に、オープン・エンド型ファンドには、デリバティブの利用と財務レバレッジの両方の観点から、あまりレバレッジされていない。
- 報告されているオープン・エンド型ファンドのポートフォリオの流動性は、投資家に通常提供される流動性に沿って管理されているようである。

(Note to the Editor は省略)

(以 上)